平成２７年度　協働事業振返り調査票

協働事業の名称　救急車の適切な利用促進

所属名（団体名）　消防局警防部救急課

１　事業の振返り

振返り項目	振返り結果 １～５を記入	コメント（理由、感想、気づいたことなど）
１－１　協働相手の選定（市） 協働相手を公募しましたか。公募しない場合は、選定理由を明確にしましたか。	５	課題解決型提案事業として公募した。
１－２　協働相手の選定（団体等） この事業の協働相手として自分の団体はふさわしい団体でしたか。	―	―
２　目的の共有 事業の目的・目標を共有しましたか。	５	それぞれの対象者ごとに打ち合わせを行うなど、事業の方向性を共有することができた。
３　目的・目標の達成 事業の目的・目標は達成できましたか。	４	事業対象者は、様々な要因により救急車を頻回に利用しており、対象者の救急出動件数をみると減少していることから、概ね評価できると考える。
４　事業実施中の意見や情報の交換 適宜、意見や情報の交換を行い、必要に応じ協議事項の見直しを行うなど、柔軟に対応できましたか。	５	連絡を密にとることで、柔軟な対応ができた。
総合コメント　稲毛区の市民に対し、救急車の適正利用の理解が深まったと考える。		

２　協働の振返り

振返り項目	振返り結果 １～５を記入	コメント（理由、感想、気づいたことなど）
１－１　協働の形態の選択（市） 選択した協働の形態（委託、共催、事業協力、支援・補助）は適切でしたか。	５	それぞれの強みが生かされ、委託事業で適切であった。
１－２　協働の形態の選択（団体等） 自らの特性を活かせる連携方法でしたか。		
２　協働の意義の明確化 協働で実施する必要性やねらいを明確にしましたか。	５	協定書により必要性やそれぞれの役割分担を明確にできた。
３　主体性・自主性の尊重 お互いを理解し、尊重して事業を進めましたか。	５	それぞれの得意な分野で分担をしながら取り組むことができた。
４　役割と責任の自覚 役割分担や責任の所在が明確でしたか。	５	協定書づくりの段階で分担が明確になっていたため、役割分担や責任の所在は明確であった。
５　協働の成果 協働ならではの成果はありましたか。また、副次的な効果はありましたか。 *副次的効果：会員が増えた、会員や職員の育成につながった、新たな事業展開や課題解決方法が見つかった等*	４	各関係団体（様々な行政担当、民生委員、地域包括ケアセンターなど）との繋がりができた。また、草の根的に救急車の適正利用を各関係団体に事業説明することにより、救急業務の現状を広く市民に理解が深まった。
総合コメント　事業内容が事業対象者のプライベートに直結するものであったため、人と人との信頼関係の構築が基本であり、事業進行の困難性が分かった。これにより即時的な成果に繋がりづらく、継続することで事業成果に繋がる事業であったと考える。		

この振返りは、協働事業を行った双方が、協働事業への理解を深め、良好なパートナーシップを構築することにより、お互いに成長し、また、よりよい協働事業の発展につなげるために実施するものです。得点の高低や事業の優劣をつけるものではありませんので、率直な意見を記入してください。※振返り結果は　１（評価が低い）→　５（評価が高い）の基準で記入してください。